

年頭所感

日本学術会議会長
黒川 清

あけましておめでとうございます。

日本学術会議も新しくなり、会員の皆様には大変お世話になっています。18、19期での調査、議論、そして政府決定の結果を踏まえてここまで到達したのはとても大きなことと考えています。わが国は科学技術立国という政策を立てており、この大事なときに日本の科学者コミュニティーを代表する機関として学術会議の社会的責任は大きいと思います。

各部部会が11月末までに開催され、新会員間の意見の交換が各部であったところです。これらの意見を収斂しながら、これからの共通の目標へ方向を再提示し、学術会議の目標を共有したいと考えます。皆さんの学術会議での活動への参加には、常勤でないこと、多忙な本務があることなど、なかなか貴重な時間を割いていただけないことは理解しています。それでも、日本の科学者コミュニティーの国内外社会からの信頼を構築し、その社会への発言が重きを成すよう日常的に努力していくことこそがこの機関の大事な仕事と考えています。私たちの活動の目的はここにこそあると思います。

中では活動計画、連携会員選考、各部会と分野別委員会を通した各分野における学協会との問題の共有と関係構築、国際関係や国際会議の継続性、政策課題の抽出と報告の作成、総合科学技術会議との連携等々、限りなく問題が横たわっています。幹事会でも長い議論でも勿論十分ではなく、ほかにも事務方との課題共有も大きな課題です。皆さん、お忙しい中、本当にまだよちよち歩きの新学術会議へいろいろな形で参加し、ご意見を頂戴しているところです。

2、4月の総会には少しずつ成果も中間報告が出来、ご意見を求めるにもより問題点を絞ることが出来ると思います。

国際的にも多くの案件が待ったなしで、1月の InterAcademy Council 理事会 (Amsterdam)、3月の InterAcademy Panel 理事会 (Rio de Janeiro)、4月のアジア学術会議 (India) 夏の G8 サミットとそれへの準備 (Russia)、9月の例年の国際会議、ほかにも多くの国際会議の共同主催や準備があります。極めて多忙な機関なのです。

これらは環境問題、南北格差の問題、人口増加問題等をふくめた多くの地球規模の問題への科学者の社会的責任への認識と行動と捕らえることが出来ますし、これこそが社会から期待されているところです。国内外での科学者たちへの期待は大きく変化しています。学会活動は国際的には注目されていますが、国内的にはまだまだ多くの課題があると考えています。また社会へのわたしたちの活動の広報も大事です。ホームページの改定、その英語版の充実等も大きな課題です。勿論、財源は大きな問題です。

しかし、何をするにも出来ない理由ばかり考え、文句を言っても致し方ないでしょう。会員一同が日常の活動、そして学会活動を通して、本当の意味でのアカデミアの独立と復権を目指して考え、行動し、力を合わせていくことをお願いします。そして、まだ不十分な活動しかできない多くの制限の中で、一人ひとりの会員が、学会活動を理解し、周りに知っていただくよう活動していただきたいと思います。一人ひとりが学会の「親善大使」としてわたしたちの活動を支援し、科学者から、社会からの理解と支援を得られるよう活動していただけるようお願いいたします。

=====

日本学会ニュースメールは、日本学会第 19 期会員、第 20 期会員・連携会員、日本学会協力学術研究団体などに配信しています。転載は自由ですので、関係団体の学術誌等への転載や関係団体の構成員への転送等をしていただき、より多くの方にお読みいただけるようにお取り計らいください。

また、メールアドレスの変更等がありましたら、事務局 (p228@scj.go.jp) まで御一報いただければ幸いです。

=====

発行：日本学会事務局 <http://www.scj.go.jp/>

〒106-8555 東京都港区六本木 7-22-34